



# SSKP つくしんぼの 会報誌 つくつく通信 No.73

「つくしんぼ」はハンディのある子どもたちの放課後活動のスペースです

編集～「フリースペースつくしんぼ」東京都町田市小川 1511 TEL/FAX 042(796)8468

## あれ? 振り向けば10年目!?!.....

その当時、息子はまだ幼稚園の年中でした。小学校に入学後の学校以外の場所はないかと考え、近所にある学童に出向き、保護者会というものに参加させて貰いました。そして、その席で面と向かってこう言われました。

「健常児だけだって大変。障害児なんて預かれるわけじゃない!!」

その席ではさすがにポーカフェイスを装っていたものの、腹の中では完璧にカチン!! ときていました。

「こんなレベルの親が役員をやってる学童なんてこっちから願い下げだ…」

口にはこそ出さなかったものの、その場で決めてしまったように覚えています。

そして翌年、障害者施設関係担当の職員に知り合いがいたのをこれ幸いと、障がい福祉課へ相談に行ってみました。

「あのう、障がい児専門の学童保育をつくりたいんですけど……」

荒唐無稽の頼みゆえ、さすがに体よく追い返されるんだろうなと思いきや、返事は意外なものでした。

「面白いかも。やってみようよ」

へ? でもそう言われても……。

いざやるとなると、何をしたいのかさっぱりわかりません。

何はともあれ東京都へ提出する書類を埋めなければ……。だけど一緒に活動するメンバーもいません。同じ幼稚園に通っている数人の障害児仲間だけしか知り合いもいませんでした。

で、翌年に入学させて貰おうとっている小学校の校長先生に相談し、障害児学級の先生→保護者と連絡して貰い、ワープロで作ったチラシを配り、「放課後活動をはじめませんか?」と営業し、集まったメンバーと親子活動もどきの活動をはじめました。それが1996年の初夏のこと。早いものでもう10年も前ってことになってしまいます。

補助金が貰えそうだからとスタートはしてみたものの、結局補助金は貰えるようになったのは3年目の春から。丸2年の間、まったくお金なし状態。親たちか



ら集めた会費とバザーの稼ぎと好意ある方々から頂いた賛助会費のみ……。

それでも施設として認めて貰おうという目的があったせいか、楽しく活動を続けていたように記憶しています。

活動3年目からはなんとか補助金を貰えるようになり、保護者だけの自主グループ活動から少し成長し、職員の雇えるレベルの施設としてやってきました。

そして10年目。10年も経つと無認可から法人にまで成長する施設などもありますけど、つくしんぼはスタート当時のまんまだったりしています。

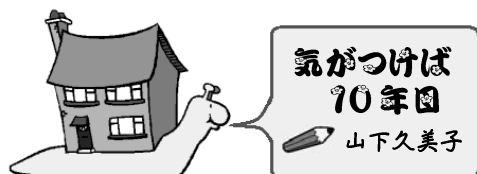
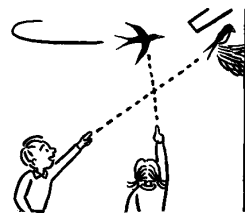
私たちがラッキーだったのは、補助金対象施設になれたことです。私たち以降、つくしんぼのような放課後活動をはじめたグループがいくつがあるのですが、補助金を受けることができないまま

今日に至っています。いや、放課後活動に限らず、作業所等も新規のものはつくしんぼ以降認められていません。

本当は一般学童のように、市内のあちこちでつくしんぼのような活動が行なわれているのが理想なのですが……。

この10年の間に市内の学童保育の環境もずいぶんと変わったそうです。障がい児のことなどまったく考えていなかったことなどウソのように、今ではマンツーマンの介助員をつけてハンディのある子供たちを預かってれています。しかも6年生まで。

ふと、つくしんぼの存在意義は？なんて考えてしまったりもする今日この頃です。



つくしんぼ、『あしかけ10年』ですネ。

大人の私たちの風貌は、ちょっと目尻の皺が増えたとか、ちょっとお腹まわりに肉がついた(笑)程度なんですけど、子どもたちの変貌には驚かされるものがあります。

我が息子も開所当時は幼稚園児で、園の制服が赤のブレザーだったこともあり、よく女の子と間違われたほど可愛い(親バカです……)線の細い男の子でしたが、今では背は170センチ、体重も70キロを超える逞しい若者になりました。でも彼自身はそこまで大きくなった自分を自覚していないようで、先日はその懐かしい幼稚園に夜間こっそり忍び込み、園庭の遊具で遊んでしまいました(園長先生ごめんなさい)。職員の方がまだ仕事をされていて、園庭の

異変に気づき保護して下さったのですが、「年は？」の問いかけに「5年生です」と応えたとのこと、本当は中学2年生なのに彼の中では小学校5年生で止まっているのかと、不思議に思いました。

つくしんぼの庭も最初は柿の木にロープをつるして作ったブランコしかなかったのに、助成金をいただいて一度に数人乗れる長いブランコや砂場ができたり、近所の方々からいただいた子ども用の自転車が増えたりと、当時を知っている者から見ると「やっぱり10年の月日は確かに過ぎているんだなあ」としみじみ思います。なによりも最初は親と子どもたちだけで活動していたのが、今は常時職員さんが居てくれる、本当にありがたいです。

つくしんぼが、これからも子どもたちの楽しい放課後の場所として、そして私たち親にとっても、色々なことを相談できる仲間が居る場所として在り続けて欲しいと願っています。



設立10年目とのこと。おめでとうございます。一番初めに職員として働かさせていただいた、藤元晴彦と申します。

初めて山下さんと顔を合わせたのは、大山のオフラインミーティング(パソコン通信で知り合った人が飲んだり遊んだりすること)だったと思います。パソコン通信を介しての縁でしたが、これがつくしんぼに出会うきっかけだったのかもしれない。

職員としてつくしんぼに勤務するようになったのは、補助金がおりようになった年の4月でした。ちょうど、神奈川県の養護学校との契約も3月いっぱいまで終わっていたので、私にとっては渡りに船という感じでした。

立ち上がったばかりのつくしんぼでしたことといえば……記憶にあるのは、掃除、家屋の修理等々。子供たちのデータベースをパソコンで作るとか作らないとか。かな

りその日暮ら的に(山下さんが)思いついたことをして過ごしていたような気がします。

つくしんぼで出会った子どもたちを振り返ると、正直、自閉症と呼ばれる子が比較的多かったという印象があります。

とにかく、走れる、木に登れる、屋根にも上る、部屋中をおもちゃで散らかしてくれる、時にはパソコンやファミコンをいじる(ファミコンに関しては、私も生まれて初めてはまりました。)という、当たり前のことが、肢体不自由の子供たちと長く接していた私にはとても新鮮な光景でした。

私は現在もあいかわらず契約職員として、横浜の養護学校で働かせてもらっています。近年、養護学校の世界は、「支援」教育に移行しているため、本当に様々な障害をもった子どもたちが入学してくるようになりました。もちろん、自閉症と呼ばれるであろうタイプの子どもも入学してくるわけです。

つくしんぼでの経験は、そういうタイプの子どもに出会った時、大いに役立っています。より多い事例に出会えたことにより、私は臆する事なくそのような子どもたちと対面することができます。

このような、貴重な経験をさせていただいたつくしんぼに感謝をして、お祝いの言葉とかえさせていただきます。



「最近の学童保育には多くの障がい児が通っているらしい」という話を耳にし、是非覗いてみたい! と思っていたところ、たまたま知り合った人が学童に行っていると聞き「これは絶対行きたい!」と思い、つくしんぼを一日休ませて貰って学童保育サシへお邪魔してきました。

その学童には、障がいを持っている子どもが本当に多く、しかも障がいのある子どもにはマンツーマンで介助者がついていて、子どもの状況に合わせてつかず離れずのとてもいい距離でつきあっているのが印象的でした。

全体の数となると学校のひとクラスの人数を超すような人数で賑やかでした。

是非、興味がある方はボランティアとして行ってみたいところともいいと思います。何より子どもと遊ぶのは楽しいし、おやつもおいしいし。。 【M】



## つくつく通信の裏表紙



5月22日(日)に、町田の市街地の真ん中にある「ぼっほ町田」においてボランティアセンター主催のバザーがあり、つくしんぼも“つくしんぼら”(つくしんぼをサポートするボランティアグループの名称)のメンバーで参加させて頂く予定になっています。

そしてこのバザーが、つくしんぼとして参加するおそらく最後のバザーとなりそうです。

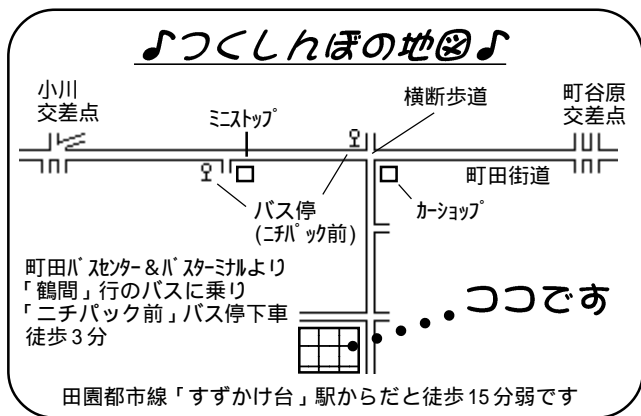
つくしんぼでは、開設当初は施設の敷地内で、その後は市街地へ繰り出し東急百貨店横の広場をお借りしてバザーを開催していました。慢性の活動資金不足であるつくしんぼにとって、運がよければ一回で50万円近くも収入のあるバザーは、準備も大変でしたが、すこぶる魅力的なイベントでした。

ところが時も経ち、特に100円ショップでの買い物当たり前になった頃から、バザーの様相が変わってきました。とにかく安値でなければ売れなくなってしまったのです。また、フリーマーケットやガレージセールが流行となり、献品して頂く品物もすっかり淋しくなっていました。

おまけに、今年の後半には、ついに町田市でもゴミ収集が有料化されるとのこと。

そうなる前に、なんとか頑張って在庫一掃してしまわないとも思ったりして……。(^\_^);

バザーに代わるお金儲けの方法はないものか、とも考えるのですが……そんなのがあったらとつくに誰かがやってますよねえ。たぶん。。。。



「ボランディア」寄付ありがとうございました

高田様、小林様、曾輪様、堀内様、松永様、山下様、鈴木様、豊田様、内野様、菅原様、佐藤様

福井様、飯塚様、高尾様、林様、三箇山様、杉本様、松田様、犬飼様、廣瀬様、原様、坂入様、久保様、越村様、永井様、中平様、サイドバイサイド様

(1月～3月)

### つくしんぼをささえる会 ご入会・ご更新のお願い

フリースペースつくしんぼはハンディをもつ子どもたちの放課後活動施設です。

1996年に開所。1998年度からは東京都と町田市から通所デイグループ事業としての補助金を受けてはいるものの、運営面で苦しいのが現状です。

よろしかったら「ささえる会」の会員になってください。年会費2000円(一口)でお願いしております。

会員の皆様には、この会報誌「つくつく通信」を送付させていただきます。よろしく願いできましたら幸いです。

郵便振替口座番号  
00120-7-168283  
加入者口座名称  
フリースペースつくしんぼ